

H30学力向上アクションプラン(豊後高田市)

目標及び指標

【目標】「夢を描き、実現できる子どもの育成 ～未来に向かって、プロとしての誇りを～」

- ①子どもの力と意欲の向上に向けた組織的な取組の推進
 - 児童生徒が主体的に学習に取り組む授業の創造【主体的・対話的で深い学び(協調学習等)】
 - 児童生徒が思考・判断・表現する授業の創造
 - 基礎・基本の習得と活用する力を育むカリキュラム・マネジメントの推進
- ②○マネジメントサイクルを生かした校内研究の日常化(授業改善による質の高い授業・OJTの日常化)
 - 学力向上支援教員及び習熟度別指導推進教員、指導教諭の組織的な活用の充実(公開授業・ブロック学力向上会議)
 - 教科部会・学年部会の充実及び補充学習の充実
- ③モデル校研究の推進
 - 校内研究の充実

達成指標

取組指標

<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力調査において、「学習の振り返り」の項目で、全国平均値を上回ること。 ○全国学力調査において、管内全学校で、すべての教科において全国平均値を上回ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で説明(発表)する機会と時間の保障をする取組を推進する学校⇒100% ○自分の学びをメタ認知(成果の実感・意欲や問題意識等と次につなげる)する「振り返り」の設定を推進する学校⇒100%
<ul style="list-style-type: none"> ○マネジメントサイクルを生かした校内研究の日常化(授業改善による質の高い授業・OJTの日常化) ・研究内容の授業への反映率が60%以上(年間時数)の学校⇒100% ○学力向上支援教員及び習熟度別指導推進教員、指導教諭の組織的な活用の充実 ・担当ブロックの定期的な学校訪問指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導主事の公開日学校訪問を通しての、校内研究を授業改善へ反映させていることの確認⇒全校・全公開日100% ○学力向上支援教員及び習熟度別指導推進教員・指導教諭による取組の充実 ・公開授業3回以上 ・ブロック学力向上会議年間3回以上・校内指導35回以上・担当ブロックの学校訪問指導 ・学力向上戦略支援会議における意見交換⇒毎月
<ul style="list-style-type: none"> ○教科部会・学年部会の充実による授業改善の推進 ・各部会による公開授業での活用型授業の実施 → 100% ○補充学習の充実 ・「授業評価」で「おおむね満足できない」児童生徒への対策を実施している学校 → 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○部会長・責任者・学校長と指導主事との連携 ・部会の年間開催回数⇒教科部会6回以上 ・近隣の学校と連携した教科部会の開催(中学校教科部会の横の連携)⇒毎月(各ブロックごとに協議決定) ・近隣の小中学校での研修会の開催⇒学期に1回以上 ○授業評価で「おおむね満足でない」児童生徒への対策会議の開催⇒ 学期1回以上
<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が主体的に取り組む授業の創造推進 ・実践研究モデル校を中心とした授業改善の実施 ⇒100% 	<ul style="list-style-type: none"> ○実践研究モデル校の公募・指定 ・公開授業⇒年間2回以上 ・研究のまとめ⇒映像でのまとめの次年度への引き継ぎ

行動計画

- ①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について
 1. 学習指導要領に基づく「豊後高田方式指導案」での授業の質の向上
 - 適切かつ明確な「ねらい」の設定
 - 「ねらい」に即した「めあて・振り返り」や「課題・まとめ」の設定
 - 自分の学びをメタ認知(成果の実感・意欲や問題意識等と次につなげる)する「振り返り」の設定
 2. 評価規準の具体化
 - 誰が見ても評価することができる単元・本時の評価規準の具体化
 - 「ねらい」と対応した評価規準と、評価方法の具体化
 3. 「努力を要する状況」の児童生徒への手立て
 - 特別支援教育の視点からの「努力を要する状況」の児童・生徒の分析
 - 「Bおおむね満足できる状況」と「C努力を要する状況」の区別ができるまで具体化しての評価規準の 設定
 - 「C努力を要する状況」の児童生徒への手立ての指導案への明記
- ②「中学校学力向上3つの提言」に関して
 1. 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底
 - 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善
 - ・実践研究モデル校の指定 ・ブロック制での実践研究
 - 低学力層の底上げを図るきめ細かい指導を進めるための習熟度別指導推進教員の活用
 - ・習熟の程度に応じた手立ての工夫(教具開発、ICT機器利用)と事例の紹介
 - ・評価規準を明確にし、個に応じた個別指導の充実を図り、上位層へのさらなるアップと低学力層の底上げ。
 - 4点セット・学力向上プランを連動させ、教科の壁を越え、全ての教科に共通した授業改善の取組内容を設定
 - 授業改善を図るための日常的な校長の授業観察による指導及び互見授業の実施
 2. 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築
 - 市の教科部会及び近隣の学校への校内研究会への参加
 - ・高田中学校でのタテ持ちと小規模校での教科部会の定例化
 - 学力向上支援教員及び習熟度別指導推進教員、指導教諭の組織的な活用の充実
 - ・業務日誌 ・公開授業 ・授業づくり講座・校内指導等 ・担当ブロック内での学校訪問指導(授業含む)
 - ・公開授業3回以上 ・ブロック学力向上会議年間3回以上 ・校内指導35回以上
 - 質の高い授業づくりのための学力向上支援教員・習熟度別指導推進教員・指導教諭による積極的な授業公開
 - 高田高校との連携を図り、教科部会を通して系統的な指導の充実を図る。
 3. 「生徒と共に創る授業」の推進
 - 生徒による授業評価の観点の作成と各校での共有(観点や評価の頻度など)
 - 生徒による学級集団としての目標設定と振り返りの実施
- ③新学習指導要領の実施に関して
 1. 小学校外国語活動・外国語科への対応
 - 全ての小学校における外国語活動の先行実施
 - 豊後高田市教育課程研究協議会「外国語活動部会」による研究授業公開
 - 近隣中学校英語教員による近隣小学校への乗り入れ授業と授業研究
 2. 学校の教育目標の明確化と、総合的な学習の時間との関連等について
 - 子どもの姿から明らかになる育成を目指す資質・能力を踏まえた評価のできる具体性ある教育目標の設定
 - 大分県教育委員会作成「新学習指導要領への移行スタート」の「学校教育全体や各教科の指導を踏まえて育成する目指す子どもの姿」を三つの柱で再整理する【例】を活用した現行の学校教育目標の見直し
 - 各学校の教育目標の実現に生かされるような、児童や学校、地域の実態に応じた総合的な学習の時間での探求活動の設定
 3. 地域とともにある学校づくり(コミュニティスクール)について
 - 現在、全ての小中学校に設置している学校運営協議会の継続・発展
 - 教育活動に必要な人的・物的資源の効果的活用
 - 学びの21世紀塾での地域人材の活用
 - 毎週土曜日に地域と連携して実施
 - ・生き生き土曜日事業(毎月1・3・5土曜日実施)・わくわく体験活動(2・4土曜日実施)
 - 放課後寺子屋講座(小学生:毎週月・火・木・金)
 - 放課後水曜日講座(中学生:水曜日)
 - のびのび放課後活動(社会体育等)
 - まなびのひろば(特別な支援を必要とする児童・生徒:毎月1・3土曜日)